

平成26年度 学校経営計画書に対する中間報告書

石川県立金沢伏見高等学校

| 重点目標 | 具体的取組 | 実現状況の達成度判断基準 | 集計結果 | 分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等) |
|--|---|--|--|--|
| 1 学力の向上 (1)家庭学習習慣の確立を通して基礎学力の定着を図る。 | ① 学習時間の調査を通して、自ら見直しを持って家庭学習に取り組む態度を育て、学習意欲の向上を図る。 | 家庭学習時間が学年+1時間以上である生徒が A:50%以上 B:40%以上 C:30%以上 D:30%未満 | 直近の1ヶ月(6/16~7/20)で、基準を達成した生徒の割合は、 1年 18.9% 2年 3.1% 3年 7.0% 全校で10.2%であった。 達成度:D | 左記の達成度は低い、学習の必要性に対する意識は持っており、学習時間そのものは徐々に増加している。但し中堅の進学校としては学習の絶対量が不足している現状といえる。 今後とも担任がクラスで訴えたり個別の面談を行うほか、教科担任による学習指導を充実させ、基準を上回る生徒の割合が増えるよう指導していく。 家庭学習時間の確保に対する肯定的回答の割合 生徒(問4)60.4% [14.9+46.5] 保護者(問5)46.8% [9.0+37.8] 教職員(問4)77.9% [22.0+55.9] |
| (2)日常的な課題を工夫して学習意欲と学力の向上を図る。 | ② 生徒の学力や理解度に応じて朝自習、週末課題、補習を行う。 | 親子ともに学習意欲が向上し学力が定着したと思う割合が A:80%以上 B:75%以上 C:70%以上 D:70%未満 | 7月のアンケートでは、授業をとおして確実に学力がついているとした生徒は、「よくあてはまる」「あてはまる」をあわせて72.9%であった。 達成度:C | 学力の向上と進路の実現は、切っても切り離せない関係にある。教師側の授業、朝自習、週末課題、補習を通じて学習意欲が向上し、学力が向上するよう指導していく。 学力定着に対する肯定的回答の割合 生徒(問6)72.9% [15.9+57.0] 保護者(問7)62.5% [7.2+55.3] 教職員(問6)74.6% [13.6+61.0] |
| | ③ 授業力のさらなる向上に組織的に取り組む。 | 授業力向上のための校内外研修に年3回以上参加した教員の割合が A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満 | 4~8月までに授業力向上のための校内外の研修に3回以上参加した教員は、44.6%であった。 達成度:D | 授業力向上のためには、自ら授業のあり方を研究するとともに、他から学ぶ姿勢が大切である。教科ごとに校内研修会を企画したり、他校や予備校における授業参観に参加したりするなど、今後も継続して取り組んでいく。 8月末までの研修会等参加回数(56名中) 3回以上25名 2回 6名 1回 13名 0回 12名 |
| 学校関係者評価委員会の評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間を見ると、2年生は中だるみということもあるだろうが、一人一人に年間の目標を持たせ、折々に自己評価させると意識が上がるのではないかな。 ・研修会参加の教員には0回が12名もあり、これらの教員が研修を受けることが先決である。 | | | |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策 | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間を学年+1時間とするのは、学年段階に従い学習の質も量も上げていく必要があるからで、これを3年間積み上げることで、幅広い進路目標に対応しつつ、中堅進学校といえる学校に近づける。そのような学習指導・進路指導の取り組みの一環として生徒に具体的な目標を立てさせ、自ら検証させることは意義がある。今後取り入れてみたい。 ・授業力向上の研修に限定して数えており、生徒理解などの研修にも多く参加している。今後は授業力向上につながる校内での研修を企画、提案していく。 | | | |

| 重点目標 | 具体的取組 | 実現状況の達成度判断基準 | 集計結果 | 分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等) |
|-------------------------------------|---|---|--|---|
| 2 人間性の向上 (1)遅刻を減らし基本的生活習慣の確立を図る。 | ① 10分前登校など各学年ごとに遅刻を減少させる取組を実施する。 | 遅刻の延べ人数が前年度と比較して A:20%以上減少した。 B:10%以上減少した。 C:10%未満の減少であった。 D:同数が増加した。 | 4～7月の遅刻者の延べ数は、 1年64(H25は61) 2年81(同121) 3年70(同92) 計215(同274)で 21.5%減少した。 達成度:A | 遅刻1～2回の段階で早め担任から指導を行い、5回以下の遅刻者の数が減少したのが奏功したと考えられる。生徒自身も遅刻防止に関する意識は高い。しかし、回数の多い生徒は常習化しており、本人への指導とともに、家庭との連携のあり方を模索する必要がある。時間を守ることは生活習慣の基本であり、今後とも遅刻者を減らすよう取り組んでいく。 遅刻防止に関する肯定的回答の割合 生徒(問1)95.7% [83.8+11.9] 保護者(問2)97.4% [77.2+20.2] 教職員(問1)100% [72.9+27.1] |
| (2)ボランティア活動に積極的に参加する生徒の意識を向上させる。 | ② ボランティアの意義や啓発の機会を通して、生徒の意識を向上させる。 | ボランティア活動に参加した生徒の数は延べで A:600人以上 B:500人以上 C:400人以上 D:400人未満 | 4～8月の参加生徒の延べ数は、 322(H25は289)である。 中間集計として、 達成度:D | 今年度は4月の伏見川清掃ボランティアへの参加を、全校生徒に呼びかけて大きく数を増やしたことが増加の要因となったが、生徒の意識はまだ高いとはいえない。ボランティア活動は、本校が伝統的に実施してきた活動であり、部活動を参加単位を中心として行ってきた。この活動で培われる資質は、少子高齢社会にあつて、社会人となっても必要なものであるとの認識に立ち、今後もボランティア精神を涵養すべく広く呼びかけていく。 ボランティア活動や意識高揚に関する肯定的回答の割合 生徒(問11)45.7% [12.7+33.0] 保護者(問12)79.6% [16.3+63.3] 教職員(問11)88.2% [42.4+45.8] |
| 学校関係者評価委員会の評価 | ・遅刻者は昨年度の生徒との比較では減少したが、同じ学年の推移を見ることも必要である。 | | | |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策 | ・同学年の推移は、現2年が61→81、現3年が33→121→70である。早い段階での指導が効果的だが、回数の多い生徒は固定しており、家庭と連携しながら遅刻の減少に努める。 | | | |

| 重点目標 | 具体的取組 | 実現状況の達成度判断基準 | 集計結果 | 分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等) |
|--|--|--|--|--|
| 3 進路希望の実現 (1)将来を見据えたキャリア教育を実践し個に応じた進路指導を行う。 | ① 学年段階に応じたキャリア教育を実施し、質の高い面談をきめ細かく行う中で進路目標を考えさせるよう指導する。 | 本校の行うキャリア教育や面談指導が進路を考えるうえで参考になったとする生徒の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満 | 7月のアンケートでは、キャリア学習が将来や進路を考えるうえで参考になったとする生徒は、「よくあてはまる」「あてはまる」をあわせて74.1%であった。 達成度:C | 生徒にとって自分の将来を考えることは、学習面、生活面のいずれにおいても非常に大切な側面である。その意味で、進路講話や総合的な学習における取り組みが評価されていると考える。 今後も「伏見プラス」プロジェクトや9月の合同進路ガイダンス等の実施と合わせ、学年段階を踏まえ、個に応じたきめ細かい指導を通じて、自らの進路を考えるよう指導するとともに、保護者への情報発信も充実させていく。 キャリア学習に関する肯定的回答の割合 生徒(問7)74.1% [22.4+51.7] 保護者(問8)80.7% [14.5+66.2] 教職員(問7)83.0% [28.8+54.2] |
| (2)普通科高校として大学への進学指導を積極的に推進する。 | ② 大学入試センター試験を活用して大学を受験する生徒が増えるよう指導する。 | センター試験の受験者が A:70%以上 B:60%以上 C:50%以上 D:50%未満 | 年度末に集計する。 | 現3年生対する進路希望調査(4月実施)では、センター試験受験希望者は157名で51.9%であった。10月のセンター試験出願に向け、国公立大のみならず、私立大入試で利用できることを啓発して指導していく。 |
| | ③ 推薦入試ばかりでなく、個別学力試験で合格するよう指導する。 | 国公立大学に出願する生徒の数が A:70人以上 B:60人以上 C:50人以上 D:50人未満 | 年度末に集計する。 | 現3年生対する進路希望調査(4月実施)では、国公立大学希望者は53名であった。9月以降も、学習指導とあわせ、面談等の個別指導を利用して、学力をつけ入試に挑むよう促し、出願生徒数を増やしていく。 |
| 学校関係者評価委員会の評価 | | ・進路指導は3年生ばかりでなく、1、2年生の段階から仕掛けを行うべきではないか。 | | |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策 | | ・1、2年生には3年間を見通した計画のもと、夏休みのオープンキャンパスへの参加等も奨励している。9月には1、2年生ばかりでなく、希望する保護者も参加できる大学進学説明会を実施する。 | | |

| 重点目標 | 具体的取組 | 実現状況の達成度判断基準 | 集計結果 | 分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等) |
|--------------------------------|---|--|---|--|
| 4 保護者や地域から信頼されるよう学校からの情報発信を行う。 | ① 本校HPの更新を増やし生徒の活動を外部に積極的に発信する。 | 本校HPの更新回数が A:60回以上 B:50回以上 C:40回以上 D:40回未満 | 7月末までの集計ではHPの更新回数は、33回(H25は32)であった。 達成度:D | 今年度のHPは学校行事ばかりでなく、部活動のページについて、高校総体・総文などの節目ごとに活動の様子を掲載し、実質的な内容を充実させてきた。 今後も生徒の活動の様子などの情報を発信し、保護者や地域の人々はもちろん、中学生にも本校理解が進むよう継続していく。また、更新回数に加えHPへのアクセス数にも注目していく。 メール配信やHPを通じた情報発信に関する肯定的回答の割合 生徒(問12:たよりを渡す)77.4% [37.5+39.9] 保護者(問13)87.9% [39.7+48.2] 教職員(問12)94.9% [52.5+42.4] |
| 学校関係者評価委員会の評価 | ・HPは学校に関係がなかったり、パソコンを持たない人は見ない。地域の町内に学校案内やチラシなどを配布することも効果の幅が広がるのではないかと。 | | | |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策 | ・中学生や保護者ばかりでなく、地域の人々にも分かりやすい広報の方法として、紙媒体の配布も有効と思われ、今後検討する。 | | | |